

質問・質疑

市政のつづきを問う

この定例会では2月26日から28日までの3日間で、20人が登壇し、44項目にわたり、市政について質問・質疑が行われました。主な項目について要約し、掲載します。

質問・質疑項目（発言順）

（※：掲載した項目）

- 鈴木 浩二 議員
 - ※1 刈谷市国際化・多文化共生推進計画について
 - ※2 市民の「自治する文化」を育むことについて
 - ※3 刈谷市の新型コロナウイルス対応について
 - ※4 市道2-485号線他道路新設改良事業について
- 新海 真規 議員
 - 1 刈谷市の感染症対策（新型コロナウイルス）について
 - 2 避難所マンホールトイレ整備事業について
 - 3 災害対策管理事業について
 - ※4 地震プレハブカー設置補助事業について
- 蜂須賀 信明 議員
 - 1 刈谷市食育推進計画について
 - ※2 学校給食について
 - 3 就学前の子供への食育の推進について
- 谷口 睦生 議員
 - ※1 小中学校のICT環境整備の推進について
- 上田 昌哉 議員
 - ※1 刈谷市の近未来について
- 清水 俊安 議員
 - 1 刈谷市の農業について
 - ※2 教育行政方針について
- 加藤 幹樹 議員
 - 1 公園管理について
 - ※2 地区駐車場設置事業補助制度について
- 渡邊 妙美 議員
 - ※1 「地域で暮らす」について
 - 2 小中学校で支援を必要とする子どもへの対応について
- 城内 志津 議員
 - ※1 児童生徒を尊重した制服・標準服のあり方について
 - 2 学校におけるLGBT施策について
 - 3 郷土愛が育まれるまちづくりについて
- 伊藤 幸弘 議員
 - ※1 教育行政方針について
- 外山 鉦一 議員
 - ※1 刈谷市一般廃棄物処理基本計画について
- 葛原 祐季 議員
 - ※1 キャッシュレス納税環境の整備推進について
 - 2 マインナンバーカードの普及について
- 山本 シモ子 議員
 - 1 2020年度（令和2年度）予算案について
 - 2 市長の施政方針について
 - ※3 教育長の教育行政方針について
- 白土 美恵子 議員
 - ※1 令和2年度教育行政方針について
- 鈴木 絹男 議員
 - 1 刈谷市総合文化センターの運営について
 - 2 障害児関係への介護公助について
- 星野 雅春 議員
 - 1 教育行政方針について
 - 2 令和2年度予算案について
 - ※3 持続可能なまちづくりについて
- 中嶋 祥元 議員
 - ※1 人材育成（学校教育）について
- 深谷 英貴 議員
 - ※1 自転車の交通安全対策について
- 稲垣 雅弘 議員
 - ※1 「元氣・笑顔・希望のまちづくり」に向けて

質問・答弁がホームページから映像で御覧になれます。「刈谷市議会」で検索し、「議会映像を見る」をクリックしてください。



鈴木 浩二 議員
第2次刈谷市国際化・多文化共生推進計画を実行性ある計画に
—社会情勢にも十分に留意し、第2次計画の策定に努める—

外国人の現状等をどのように第2次計画へ反映するのか
現在刈谷市国際化・多文化共生推進計画は、令和3年度に終期を迎えるため、令和2年度に市内在住の日本人及び外国人の市民を対象としたアンケート調査を実施する。アンケート結果と社会情勢を踏まえて、第2次計画を策定していく。

牛田 清博 議員

「ジェンダー平等」で市民参画の推進をすべき
—ミライク会議開催に向けて男女共同参画を推進していく—

ジェンダー平等とは、個人の尊厳が守られ公平で公正な社会を目指すことである。実行委員会では、市民が参加し、男女共同参画が活発に進められているが、さらなる推進を求める。

新海 真規 議員

「地震プレハブカー」設置費補助事業の内容は
—購入及び設置の費用に、上限2万円の補助を行う—

令和2年度から地震プレハブカー設置費補助事業が事業化される。これについては、平成28年9月定例会で要望しており、事業化を高く評価する。事業の詳細はどうか。

渡邊 妙美 議員

多職種間で連携し、地域包括ケアシステムの構築を
—地域の期待に応えられるよう、さらなる連携体制の整備に努める—

地域包括ケアは、支援を受ける人だけでなく、支援をする人を支えるために多職種間連携が重要である。連携の場としての地域ケア会議での課題を、市はどのように解決しているか。

城内 志津 議員

児童生徒を尊重した制服・標準服への見直しを
—制服・標準服は各学校と家庭で協議し決めるものと考えている—

ジェンダー平等等社会の視点に立つとき、男女別の制服着用義務は、生まれ持った多様な性や個性を狭めているのではないかと。防寒・防犯面からも制服の選択制や女子向けストラップ等を導入する考えはあるか。

伊藤 幸弘 議員

産業の持続的成長を促す革新的な取組を
—企業が進出しやすいよう、日本一安心安全なまちづくりを推進する—

自動車産業の変革を受け、新たな分野の産業誘致を視野に、雇用創出する「地域経済活性化施策」についての考えは。

山本 シモ子 議員

中小学校の職場体験学習に
—少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していき—

少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していきたいと考えている。

外山 鉦一 議員

「ごみ減量」に向けた取組を
—市民・事業者・市が一体となり、ごみの減量化を推進する—

平成29年度の本市の一人一日当たりの「ごみ総排出量」は県平均より81グラム多い。家庭系ごみは約4%減、事業系ごみは約6%増となっているが、一人当たりのごみ処理関連費用は、平成30年度は1万4,355円である。

葛原 祐季 議員

スマホ決済の利用が増えるなか、新しい納税方法としての検討を
—導入している自治体の状況、費用対効果等も鑑みて検討する—

市民税等の納税に際し、近隣自治体がクレジットカードを用いた納付を導入している。クレジットカード納付をどう考えるか。

山本 シモ子 議員

中学校の職場体験学習に
—少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していき—

中学校の職場体験学習に少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していきたいと考えている。

蜂須賀 信明 議員
学校給食の残食を減らすための対策を
—自主的に完食を目指す活動に取り組んでいる—

給食で栄養バランスのとれた豊かな食事を提供することにより、健康の保持増進や体力の向上が図られるが、残食率とその対策は。

谷口 睦生 議員

小中学校におけるICT環境の早期整備を
—具体的な活用方法や運用ルールを研究し、実現を目指す—

国が進める「GIGAスクール構想」とは、AIに代替されない創造性を育む学習環境を整備するため、児童生徒向けに一人一台の学習用端末と通信ネットワークを整備する構想である。

上田 昌哉 議員

就学援助における新入児童生徒学用品費のさらなる拡充を
—新1年生の不安を少しでも解消できるよう適切な援助に努める—

就学援助として支給を受ける新入児童生徒学用品費の過去5年間における単価の推移はどうなっているか。

外山 鉦一 議員

「ごみ減量」に向けた取組を
—市民・事業者・市が一体となり、ごみの減量化を推進する—

平成29年度の本市の一人一日当たりの「ごみ総排出量」は県平均より81グラム多い。家庭系ごみは約4%減、事業系ごみは約6%増となっているが、一人当たりのごみ処理関連費用は、平成30年度は1万4,355円である。

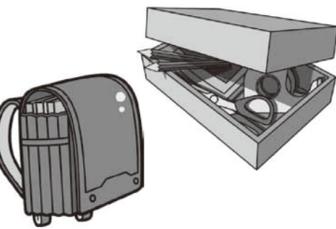
山本 シモ子 議員

中小学校の職場体験学習に
—少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していき—

少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していきたいと考えている。

中学校の職場体験学習に少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していきたいと考えている。

中学校の職場体験学習に少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していきたいと考えている。



安心して学用品をそろえられるよう支援

質問・質疑

市政のつづきを問う

この定例会では2月26日から28日までの3日間で、20人が登壇し、44項目にわたり、市政について質問・質疑が行われました。主な項目について要約し、掲載します。

質問・質疑項目（発言順）

（※：掲載した項目）

- 鈴木 浩二 議員
 - ※1 刈谷市国際化・多文化共生推進計画について
 - ※2 市民の「自治する文化」を育むことについて
 - ※3 刈谷市の新型コロナウイルス対応について
 - ※4 市道2-485号線他道路新設改良事業について
- 新海 真規 議員
 - 1 刈谷市の感染症対策（新型コロナウイルス）について
 - 2 避難所マンホールトイレ整備事業について
 - 3 災害対策管理事業について
 - ※4 地震プレハブカー設置補助事業について
- 蜂須賀 信明 議員
 - 1 刈谷市食育推進計画について
 - ※2 学校給食について
 - 3 就学前の子供への食育の推進について
- 谷口 睦生 議員
 - ※1 小中学校のICT環境整備の推進について
- 上田 昌哉 議員
 - ※1 刈谷市の近未来について
- 清水 俊安 議員
 - 1 刈谷市の農業について
 - ※2 教育行政方針について
- 加藤 幹樹 議員
 - 1 公園管理について
 - ※2 地区駐車場設置事業補助制度について
- 渡邊 妙美 議員
 - ※1 「地域で暮らす」について
 - 2 小中学校で支援を必要とする子どもへの対応について
- 城内 志津 議員
 - ※1 児童生徒を尊重した制服・標準服のあり方について
 - 2 学校におけるLGBT施策について
 - 3 郷土愛が育まれるまちづくりについて
- 伊藤 幸弘 議員
 - ※1 教育行政方針について
- 外山 鉦一 議員
 - ※1 刈谷市一般廃棄物処理基本計画について
- 葛原 祐季 議員
 - ※1 キャッシュレス納税環境の整備推進について
 - 2 マインナンバーカードの普及について
- 山本 シモ子 議員
 - 1 2020年度（令和2年度）予算案について
 - 2 市長の施政方針について
 - ※3 教育長の教育行政方針について
- 白土 美恵子 議員
 - ※1 令和2年度教育行政方針について
- 鈴木 絹男 議員
 - 1 刈谷市総合文化センターの運営について
 - 2 障害児関係への介護公助について
- 星野 雅春 議員
 - 1 教育行政方針について
 - 2 令和2年度予算案について
 - ※3 持続可能なまちづくりについて
- 中嶋 祥元 議員
 - ※1 人材育成（学校教育）について
- 深谷 英貴 議員
 - ※1 自転車の交通安全対策について
- 稲垣 雅弘 議員
 - ※1 「元氣・笑顔・希望のまちづくり」に向けて

質問・答弁がホームページから映像で御覧になれます。「刈谷市議会」で検索し、「議会映像を見る」をクリックしてください。



鈴木 浩二 議員
第2次刈谷市国際化・多文化共生推進計画を実行性ある計画に
—社会情勢にも十分に留意し、第2次計画の策定に努める—

外国人の現状等をどのように第2次計画へ反映するのか
現在刈谷市国際化・多文化共生推進計画は、令和3年度に終期を迎えるため、令和2年度に市内在住の日本人及び外国人の市民を対象としたアンケート調査を実施する。アンケート結果と社会情勢を踏まえて、第2次計画を策定していく。

牛田 清博 議員

「ジェンダー平等」で市民参画の推進をすべき
—ミライク会議開催に向けて男女共同参画を推進していく—

ジェンダー平等とは、個人の尊厳が守られ公平で公正な社会を目指すことである。実行委員会では、市民が参加し、男女共同参画が活発に進められているが、さらなる推進を求める。

新海 真規 議員

「地震プレハブカー」設置費補助事業の内容は
—購入及び設置の費用に、上限2万円の補助を行う—

令和2年度から地震プレハブカー設置費補助事業が事業化される。これについては、平成28年9月定例会で要望しており、事業化を高く評価する。事業の詳細はどうか。

渡邊 妙美 議員

多職種間で連携し、地域包括ケアシステムの構築を
—地域の期待に応えられるよう、さらなる連携体制の整備に努める—

地域包括ケアは、支援を受ける人だけでなく、支援をする人を支えるために多職種間連携が重要である。連携の場としての地域ケア会議での課題を、市はどのように解決しているか。

城内 志津 議員

児童生徒を尊重した制服・標準服への見直しを
—制服・標準服は各学校と家庭で協議し決めるものと考えている—

ジェンダー平等等社会の視点に立つとき、男女別の制服着用義務は、生まれ持った多様な性や個性を狭めているのではないかと。防寒・防犯面からも制服の選択制や女子向けストラップ等を導入する考えはあるか。

伊藤 幸弘 議員

産業の持続的成長を促す革新的な取組を
—企業が進出しやすいよう、日本一安心安全なまちづくりを推進する—

自動車産業の変革を受け、新たな分野の産業誘致を視野に、雇用創出する「地域経済活性化施策」についての考えは。

山本 シモ子 議員

中小学校の職場体験学習に
—少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していき—

少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していきたいと考えている。

外山 鉦一 議員

「ごみ減量」に向けた取組を
—市民・事業者・市が一体となり、ごみの減量化を推進する—

平成29年度の本市の一人一日当たりの「ごみ総排出量」は県平均より81グラム多い。家庭系ごみは約4%減、事業系ごみは約6%増となっているが、一人当たりのごみ処理関連費用は、平成30年度は1万4,355円である。

葛原 祐季 議員

スマホ決済の利用が増えるなか、新しい納税方法としての検討を
—導入している自治体の状況、費用対効果等も鑑みて検討する—

市民税等の納税に際し、近隣自治体がクレジットカードを用いた納付を導入している。クレジットカード納付をどう考えるか。

山本 シモ子 議員

中学校の職場体験学習に
—少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していき—

少人数学級の試験に活用し、その判断を尊重していきたいと考えている。



より高度な技術の創造などを支援し成長し続けるまちづくりを